

10 農業・工業・商業・水産・看護・福祉

☆専門高校の現状

高等学校における職業教育は、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉など職業に関する教育を行う専門高校を中心に行われています。

令和5年現在、専門高校の生徒数は、約49.7万人であり、高等学校の生徒数全体の17.1%を占めています。

専門高校は、有為な職業人を多数育成するとともに、望ましい勤労観・職業観の育成や豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても大きな役割を果たしています。

☆専門教科に求められるもの

「県立高校改革実施計画（全体）平成28年1月」では、「将来のスペシャリストの育成」、「将来の地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」という3つの人材育成の視点に基づき、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程となるように、より一層の改善に取り組むことが求められています。

☆課程・学科等の改善

参考：「県立高校改革実施計画（全体）平成28年1月」

農業 神奈川の農業の特性をいかすとともに、6次産業化の進展への対応や先進的な農業技術の習得などを図るため、農業にかかる教育機関や企業などとの連携を一層推進します。

各教科における「見方・考え方」

農業



農業や農業関連産業に関する事象を、安定的な食料生産と環境保全及び資源活用等の視点で捉え、持続可能で創造的な農業や地域振興と関連付けること。

工業



ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること。

商業



企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けること。

水産



水産や海洋に関連する事象を、漁業生産や船舶運航、海洋工学、情報通信、資源増殖、水産食品の製造や流通、海洋の環境保全や活用などの視点で捉え、地域や社会の健全で持続的な発展と関連付けること。

看護



健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること。

福祉



生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けること。

「見方・考え方」を意識して指導する

「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」です。商業科を例にその重要性について考えてみましょう。

商業の「見方・考え方」は「**企業活動に関する事象を（中略）ビジネスの適切な展開と関連付ける**」とされ、様々な事象を「**企業側**」から捉えることが求められています。

例えば、「電子決済」について学ぶ単元で、ある生徒の授業後の振り返りの記述が次のようなものであったとします。

電子マネーのいいところや問題点が分かりました。
今使っている電子マネー以外も試しに使ってみたいです。



この生徒は「**消費者側**」として授業内容を捉えており、教科を学ぶ本質である商業の「見方・考え方」（企業側から捉える）から離れています。「何のために商業を学ぶか」が把握できていなければ、この単元の目標はもとより、教科・科目の目標の達成も難しいでしょう。

それでは、振り返りの記述がどのようなものになっていれば、生徒が商業の「見方・考え方」を働かせたと言えるのでしょうか。例えば、次のような記述が考えられます。

事業者や消費者にとってのメリット・デメリットが分かりました。私が社長だったら、どの電子マネー決済を店舗に導入するかを考えていきたいです。



生徒が教科・科目を学ぶ「本質的な意義」の部分を読み外すことがないよう、教員は各教科の「見方・考え方」を意識した学習指導を心がけていきましょう。

《 他の例 》

- ・ 共通教科「情報」と専門教科「情報代替科目」の違いは？
- ・ 共通教科「家庭」と農業科「食品製造や食品流通の分野」の違いは？
- ・ 共通教科「美術」と工業科「デザイン分野」の違いは？ など

「見方・考え方」を意識して評価する

「学びに向かう力、人間性等」も、生徒が「見方・考え方」を働かせて単元の学習にアプローチするからこそ培われます。主体的に学習に取り組む態度の評価に当たっても、生徒が「見方・考え方」を働かせられているかを意識して評価していきましょう。

【STEP1】「見方・考え方」の具体化（生徒が意識しやすいように）

商業の例：「採算性（コスト、利益等）、利害関係者（株主、経営者、顧客等）、社会情勢、CSR 等」

【STEP2】単元の学習内容について、具体化した視点で課題を捉え、より良く改善し、工夫を凝らそうとしているかを中心に評価する

〈前ページからの続き〉

工業 科学技術の進歩とともに高度化する工業技術の習得や実践的なものづくり教育を進めるため、長期間の現場実習を教育課程に位置付けるなど、企業や大学、職業技術校などとの連携を一層推進します。

商業 急速に進展する経済社会のグローバル化に対応するとともに、他の産業分野との連携、協働による生産から加工、流通、販売までの総合的で実践的な教育を進めるため、地域の企業や商工業団体、大学などとの連携を一層推進します。

水産 水産業及び海洋関連産業の担い手となる人材を育成するため、地元の漁業協同組合や企業、行政機関、さらに、大学や研究機関などとの連携を一層推進します。

看護 看護人材に求められる資質・能力が時代とともに変化する中、医療現場では、看護に関する高度な専門知識と幅広いスキルを持った人材が求められています。そのため、高校段階では、看護系大学や専門学校での高度な専門教育に対応できる基礎学力を身に付ける必要があります。

福祉 社会福祉に対する地域や行政等のニーズが高まる中で、介護福祉や手話言語などについての専門的な知識や技能を習得するなど、社会福祉にかかわる人材を育成するため、社会福祉施設をはじめ社会福祉協議会や行政機関、大学や専門学校などとの連携を一層推進します。